



Le mani toccano il mondo

手でふれてみる世界

2022 / 日本 / 60分 / 日本語・イタリア語 / ドキュメンタリー



上映会

11月26日(土) ヴァンジ彫刻庭園美術館 開館20周年記念展 関連イベント

12月3日(土) 京都国立近代美術館 1階講堂 CONNECT 2 関連イベント

12月4日(日) 国立新美術館 DOMANI・明日展 2022-23 関連イベント

各会場上映後、トークイベントを開催します。詳しくは、映画特設サイトにて告知予定。

監督・撮影：岡野晃子

編集：早川 嗣 (ボレボレタイムス社)

字幕翻訳：朝岡直芽

音楽：阿部海太郎、仲野麻紀/ヤン・ピタール

制作：pangolin arte

<https://le-mani.com>





彫刻に手で触れて、
この世界の一部分を感じとる。
彫刻を抱擁する人が写し出された
一枚の写真と出会った。
彼はなぜ、愛おしそうに触れているのか、
知りたいと思った。

Le mani toccano il mondo 手でふれてみる世界

イタリア・マルケ州アンコーナに暮らす、視覚に障害を持つアルド・グラッシーニと妻のダニエラ・ポッテゴニ。芸術を愛し、80カ国以上を旅して、それぞれの文化が生み出してきたもの、自然や生きものに手で触れながら世界と出会ってきた。しかしながら、どの国を訪れても、美術館で作品を鑑賞することだけは困難だった。美術作品を後世に残すため収集、保存、公開する美術館と呼ばれる場所では、ガラスケースや柵越しに作品を見ることに重きをおいた、「視覚優位」の活動が行われているからだ。ならば自分たちで、見える人も見えない人も、ともに美術作品に手で触れて鑑賞できる美術館をつくろうと、夫妻は自ら行動し、「オメロ触覚美術館」を創設する。1993年にマルケ州の支援によって開館したこの美術館は、1999年にはイタリア議会の承認を受け国立の美術館となり、子どもから大人まで、視覚に障害がある人もない人も訪れる、すべての人に開かれた美術館となった。そこで働く人、訪れる人、かかわる人々は、「美術館とは何か」を静かに語りかけてくる。



日本で長年に渡り美術館運営に携わってきた監督は、オメロ触覚美術館の存在、その活動に心動かされ、この世界の断片を多くの人に伝えたいという思いからカメラを手を取った。「手でふれてみる世界」をテーマに、触れることが困難なコロナ禍の下でイタリアへ通い、見えてきたものとは。

